



オリーフ通信

安心して行きなさい。

マルコによる福音書5章34節

神愛保育園

5月をおかえて

進級、入園から早くも1か月が経ちました。心地よい風の吹く中で、お散歩を楽しんでいる子どもたち。新しいお友だちの存在や大人にもすっかり慣れてきているようです。

三階の事務所の中にいると、階下にあるつくし組の子どもたちの元気な泣き声やひまわり組の楽しそうな笑い声が聞こえてきます。はじめて保護者の方から離れ新しい環境の中で、自分の思いをぶつけているように聴こえたつくし組の子どもたちの泣き声も、今では「おなかですいたよ」「ねむたいよ」と保育者に訴えている泣き声に変わってきています。保育園の生活にも慣れ始め、保育者と信頼関係を築き始めているのでしょう。

また、入園当初にほぼ一日中、新しい場所だと理解し、不安を感じて、泣き続けていたたんぽぽ、もも組さんの子ども達も、今では、すっかりお友だちの輪に入って遊んでいる姿を目にします。特に進級をしたこの年齢の子どもたちは、つい最近まで自分たちが生活していたお部屋に、違う子どもたちの姿を見ることで、今までには感じたことのない感情や思いをそれぞれ感じているようです。

ちゅうりっぷ組さんは、新しい大人に囲まれ、またひまわり組さんと交流する中で、少しずつ「大きくなったこと」への自覚を感じながら、しかし、乳児期に戻ったり、と行ったり来たりしながら成長しているようです。

ひまわり組さんも、自然に自分たちが年長、年中だという事をいつの間にか意識し、小さい子どもたちに配慮する姿も見られます。大人が声掛けをしていなくても、こうした心配りができるのも、保育園という0歳児の赤ちゃんから小学校へ入学するまでの子どもたちが一緒に生活する集団であるからだと思います。「○○ちゃんはこれが好きだよ」「この遊びは、難しそうだからやらないと思うよ」とお友だちや、年下の子どもたちの好みもよくわかってきますし、共感することも学んできています。保育園で生活を共にするという事は、こういうことなのでしょう。

ゴールデンウィークも終わり、長いお休みをおうちで迎え、保育園に戻ってきた子どもたち。まだまだ時には不安になったりする姿もあり、この5月は、行きつ戻りつの姿が見られるでしょう。しかし、確実に子どもたちは園の生活、新しい仲間や周りの大人を身近に感じているのです。

今年度も、新型コロナの感染収束が全く見えない中で、保育園が始まっています。さらに今後さらなる感染拡大が不安視されている変異株の出現の中で、現在今後の行事や保育活動の内容について、江東区からのガイドラインに従いながら、どのように工夫していけば実施できるのか職員と共に検討を重ねています。保育園に登園してくる子どもたち一人一人にとってまずは、このコロナ禍でも安心できる「居場所」であり、子ども自身の「積み重ね」を大切にして「今日も一日楽しい日だった」と思えるような保育をすすめていきたいと願っています。

神愛保育園 鵜澤由記子





食事だより



2021年度もよろしくお願いたします

今年度も食材の種類や味付けの幅を徐々に増やし、たくさんの食材や味覚への興味を持ってもらえる食事を作っていきたいと思っています。

神愛保育園では以下のことに配慮して食事を提供しています

☆国産の食材を主に、無添加の調味料を使用しています☆

お米は山形県産と秋田県産の2か所から取り寄せており、1歳クラスから5歳クラスまでは五分づき米を使用しています。(雑穀も一緒に炊き込んでいます。) その他にも、近隣の八百屋さん、お肉屋さん、魚屋さんからその日に市場で仕入れてきた新鮮な食材を納品して頂いています。調味料は生協で国産の食材を使用した無添加のものを使用しています。

☆ごはんが中心の和食献立を多く取り入れています☆

パンや麺のメニューはおやつも含め週2~3回を目安に組み込んでいます。季節(旬)や行事に合わせたメニューや郷土料理なども取り入れています。郷土料理は食事だよりで紹介します。

☆保育園での栄養目標に準じた献立を作成しています☆

4月は1日平均でたんぽぽ・もも組 約500kcal ちゅうりっぷ・ひまわり組 約600kcalを昼食とおやつから摂取できるようにしています。身長・体重の成長にあわせて、栄養価など見直しながら園に見合った食事内容を検討します。

☆毎日だしを取り、おいしく体に優しい食事を提供していきます☆

だしは国産で自然食の干し椎茸、天然の昆布、ブレンドの厚削りを使用しています。味付けは大人にとって薄味と感じる程度の味付けを心掛けています。離乳食では素材の味を生かし、ほぼ調味料は使用しません。

ただ薄いだけで味気ない食事ではなく、旨味を感じられる塩分を考えながら味付けをしています。(塩分濃度は0.6~0.7%を基準値とし、調理室全員で味見をして塩分計も使用しています。)

調理室では以下の事を心掛けて食事を作ります

- その1. 園児はもちろん、園にお子様を預けて下さっている保護者の皆様の安心・安全の為に衛生管理の徹底をお約束します。
- その2. 既製品・化学調味料は極力使用せず、だしの風味を生かした優しい味を心掛けていきます。おやつも手作りのものを中心に提供していきます。

お知らせ

神愛保育園では昼食に国産のフルーツを提供していましたが、価格高騰や誤嚥の危険性により年々提供できるフルーツの種類が限られてきました。そのため2021年度6月よりバナナ、グレープフルーツを使用する事にしました。食材が安全である事をきちんと確認して使用する品種を限定した上で購入します。(購入先はパルシステムです)厚生労働省の大量調理マニュアルの基準に従って提供します。質問がある方は園長、栄養士までお願い致します。



新型コロナウイルス感染症の拡がり気になる中、緊急事態宣言が発令されました。まん延防止措置法との違いが分かりづらいのが実感ですが、感染拡大の局面には変わりありません。感染力が強いと言われている変異株の存在も脅威です。自分たちで出来る予防は手洗い・うがい・マスクの着用・外出を控えるなどに尽きますが、免疫力を高く保つためには睡眠・食事・適度な運動も必要です。規則正しい食事・睡眠習慣と、人出の少ない時間帯の散歩なども工夫をお願い致します。

5月27日(木)は歯科検診が実施されます。結果はお便りでお知らせいたします。乳幼児期の歯磨きは、習慣づけることが目標になります。虫歯予防で一番大切なのは、夕食後の仕上げ磨きと言われています。ご家庭でも、歯磨きのあとは、必ず大人が確認・仕上げ磨きをするよう習慣づけていきましょう。

マスクの着用

マスクが必需品となって、もう一年となりました。園では4.5歳クラスの子どもたちが感染予防の観点から、マスクを着用しています。マスクがあることで、気になって顔や口元を触ってしまったり、鼻が出るような着け方をしていたりする姿もあります。(まだ就学前の年齢ですので、習慣づけていく事、慣れていく事を主眼にしています。)



ひだまり

～地域の親子と園児の交流～



ひだまりは年末年始と祝日・休日を除く月曜日から金曜日の午前10時から午後3時まで、地域の親子に開放している子育てひろばです。園舎とは少し離れた場所にありますが、室内にはお子様向けのおもちゃ・絵本・お母さん向けの雑誌等が置いてあります。お子様が遊んでいる姿を見ながらお母さん同士がおしゃべりできるスペースもあります。

☆現在は新型コロナ感染拡大防止のため10時から12時、13時から15時の2時間で区切り午前・午後各4組、飲食も控えさせて頂いております。

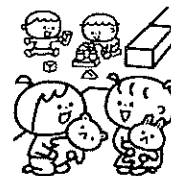
コロナ禍で行動に制限はありますが、保育園の子どもたちとひだまりに遊びに来てくれる方たちとの交流を増やしていきたいと考えてします。今年度もよろしくお願いたします。 福田

「ともにそだつ」は、3年前まで行っていた保育日誌の紹介です。

保護者の皆さまからの声もあり、今年度から再び紹介していきたいと思ひます。



ともにそだつ



私たちは、保護者の皆さんと共に子育てをしています。
園の中での子どもの様子を伝え、子どもの育ちを共に考え、
喜びを共有したいと願ひながら、この保育日誌紹介のコーナーを
設けています。ともに子どもから学んでいきましょう。

2021年 4月 14日(木) 天気 雨・曇り たんぽぽ組(1歳児)

“貸して欲しかったのに…”

AとBがおもちゃの金槌トントンを始めると、Cもやりたそうに近づいていく。しかし、2つしかない為立ち止まる。しばらく様子を見ていると、Cから手のひらを返して「貸して」と伝えた。Bに意図が伝わったが、首を横に振られてしまう。思い通りにならず保育者の元へ来て落ち込むC。「Aちゃんにも聞いてみる？」と促すとAにも「貸して」と尋ねたが、貸してもらえなかった。どうしても使いたかったという思ひを激しい泣きで表現するCであった。

家庭では、年の離れた兄姉がおり、貸してとジェスチャーをすればおもちゃを貸してもらえる環境である。だが、園での他児との関わりではそうはいかず、泣いて気持ちを表現しているようである。他児との関わりの中で、根気強く接していけたらと思ひ。

保育園では、おもちゃをめぐる子どもたち同士のトラブルはよく起こります。“おもちゃ自体を使いたい”という場合もありますが、お友だちへの関心が高まっていくこの時期には、お友だちが使っているおもちゃがとても魅力的に見え、“どうしても使いたい”という気持ちが生まれトラブルに繋がってしまうこともあります。この時保育者は、保育者主導で解決に持っていくのではなく、見守ったり「～してみようか？」と関わり方を提案しています。Cちゃんだけでなく、AちゃんBちゃんの“まだおもちゃを使っていたい”というお互いの思ひや決定も尊重しているからです。2回の「かして」もかなわず、Cちゃんは残念でしたが、思ひを受けてもらった安心や信頼を感じ、泣き止み落ち着いた頃には“次もお願いしてみようかな…”と思えたのではないのでしょうか。上手くいかなかった経験も、相手の気持ちを知り関わり方を知る良い学びの機会となっていく思ひます。思ひを支えてくれる大人の存在を感じながら、お友だちとの世界を広げていって欲しいです。